

教 学 の 手 引 き

2011

人文総合科学インスティテュート  
言語コミュニケーションプログラム

文 学 部



## Table of Contents

# 人文総合科学インスティテュート 言語コミュニケーションプログラム

---

<b>I</b>	人文総合科学インスティテュート言語コミュニケーションプログラム 教学紹介	
1	教学理念・目標	3
2	履修の仕方	4
3	科目の構成と履修モデル	6
4	科目概要	13
5	言語コミュニケーション研究入門	18
6	言語コミュニケーション基礎講読	19
7	演習	19
8	卒業論文・卒業制作	20
<b>II</b>	科目一覧と履修方法	
1	科目一覧	24
2	履修方法	25
3	共同研究室の利用法	26

### 「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL : [http://www.ritsumeijp/lt/lt07\\_j.html](http://www.ritsumeijp/lt/lt07_j.html)）や掲示で随時発表しますので、定期的に確認をしてください。



# I

人文総合科学インスティテュート  
言語コミュニケーションプログラム 教学紹介



## 1 教学理念・目標

### 〔教学理念〕

人間はことばによって社会を築きます。社会はことばにより共同体のきずなを深め、文化を伝えます。人はことばを通して思考し、世界を理解し、思いと感動を伝え、それを芸術に高めます。ことばとコミュニケーションは人が社会に参加し、文化的実践を行うかなめです。ことばはなによりも人間が生活のなかで実践し、文化を生み出すものです。話しことば、書きことばによる実践を豊かにし、思想の表現と伝達の力を高めることは人間の可能性を大きく飛躍させます。

ことばは文化を築きながら、しかもなお、異文化の壁を越える力ともなります。国際化が日常生活の一部となった現代社会において、日本語教育、外国語教育の重要性はさらに高まり、それとともに第二言語教育を実践する高度な力が求められています。ことばを学び、教えることについての深い理解にもとづく教育実践はわが国の国際化に大きく寄与するものです。

言語コミュニケーションプログラムはことばとコミュニケーションを実践的に学び、研究する教育プログラムです。ことばとコミュニケーションの教授と研究を通し、人とことばにかかわる人文学の新境地を切り開き、社会に貢献することを本プログラムはめざしています。

### 〔教学目标〕

言語コミュニケーションプログラムはことばとコミュニケーションについて深く理解し、ことばによる実践の力を身につけ、人間の可能性を切り拓き、市民社会をさらに発展させる力をもった学生を育成することを目的としています。本プログラムでみなさんは次のような力を身につけます。

1. 人とことばについて深い理解をもち、ことばに対してとぎすまされた感性を身につける。
2. 話しことばにより、情景をわかりやすく描写し、また、考えを的確に、効果的に伝えるなど、目的にそったコミュニケーションができる。
3. 解説文、評論文、紀行文など目的にそった、わかりやすい文章を書くことができ、物語文やシナリオなどを想像力豊かに創作することができる。
4. 文学作品を深く理解し、作品の意図するところを音声で情感をこめて表現することができる。
5. 日本語を外国語として客観的に見つめなおすことで、日本語と日本文化の特徴を理解し、外国語として日本語を学ぶ人の視点で日本語を効果的に教えることができる。(将来、日本語教員をめざす人)
6. 日本語と英語の特徴、異文化間のコミュニケーションの理解をふまえ、言語教育学の深い理解のもとに英語を外国語として効果的に教えることができる。(将来、英語教員をめざす人)
7. ことばについての疑問をみずから解決する力をも身につけ、ことばについて新たな知見を創出することができる。
8. 人とことば、コミュニケーションに関する深い理解のもとに、社会に積極的に参加し、その発展に寄与しようとする態度を身につける。

### 〔教学の特色〕

#### 1. 話しことばによるコミュニケーションの専門的な力を育てます

正確に、わかりやすく情報を伝えるアナウンス、作品を情感豊かに伝える朗読などの音声表現を実践的に学びます。司会やレポーターに必要なコミュニケーションの力を養います。

#### 2. 文章創作の専門的な力を育てます

わかりやすく、切れ味鋭い評論や解説文、詩情豊かに情景を描き出す紀行文、心躍らせる物語文など、読者に訴える力をもつ文章の創作を実践的に学びます。

#### 3. 日本語・英語教員を養成します

応用言語学、社会言語学的な理解を基礎に「外国語としての日本語」を教えるための日本語教育学の力を実践的に身につけます。英語科教員をめざす学生は言語とコミュニケーション、また英語教育学を深く学び、言語教育の専門家としての力を身につけます。

#### 4. 実践的にことばを研究します

言語生活や言語教育の実践において私たちが日々、遭遇する課題を自律的に解決する力を養います。賛否が分かれることばの用法や日本語を外国語として学ぶ人がまちがえやすい表現など、ことばにかかわる課題を言語学の新しい手法により研究し、解決する力を身につけます。

## 2 履修の仕方

### 〔1回生〕

ことばとコミュニケーション、人間について基礎的な理解を養うとともに、プログラムで4年間学んでいくためのイメージを描きます。1回生では全員、次の科目を履修します。これは登録必修科目で、すべての人が登録し、履修しなければなりません。これらはプログラムのもっとも根幹をなす科目で、音声表現、文章創作、日本語教育、英語教育、言語研究、どのような方面に進む場合でも、その基礎となるものです。

「言語コミュニケーション研究入門」（小集団演習）

「言語表現概論」（ことばと表現についての最も基礎的な科目）

「音声表現法基礎」（音声表現についての最も基礎的な科目）

「文章表現法基礎」（文章表現についての最も基礎的な科目）

「言語学概論」（言語研究に関する最も基礎的な科目）

なお、この他、次の科目が選択科目として開講されます。

「言語コミュニケーション特殊講義」

これは全員が履修する必要はなく、希望者が登録して履修します。また、1回生で履修する必要はなく、2回生以降でも自由に履修できます。「言語コミュニケーション特殊講義」はみなさんの関心や社会的な要請に、迅速に、機動的に対応することをめざした科目です。このため、その内容は年度により変わることがあります。

### 〔2回生〕

2回生ではことばとコミュニケーションの分野の中から、各自が集中して取り組みたい分野を絞り込みます。自分の関心のありかを確認しながら、ことばとコミュニケーションについて、さらに高度で、広い内容に取り組みます。

2回生で全員、登録し、履修しなければならない登録必修科目は

「言語コミュニケーション基礎講読」

です。これは「講読」という名前はついてはいますが、1回生の「言語コミュニケーション研究入門」に引き続く、小集団演習です。

2回生では次の科目のうちから、少なくとも1科目を登録し、履修しなければなりません。これらは必ずどれかひとつを選択して履修するので「選択登録必修科目」とよびます。ただし、複数履修することは自由です。複数履修する場合には、2回生で複数、あるいは3回生以降、別途履修することができます。

「コミュニケーション論」（音声表現、文章創作をめざす人、人と人とのコミュニケーションを学びたいと考えているすべての人に勧めます）

「日本語教授法基礎演習」（日本語教育をめざす人に勧めます）

「英語教育リサーチ・メソッド」（英語教育をめざす人に勧めます）

「応用言語学」（言語研究、言語教育をめざす人に特に勧めます）

この他、選択科目として次の科目が開講されます。それぞれの関心、将来の目標にそって授業を選択して履修します。これらの科目は必ずしも2回生で履修する必要はなく、3回生、4回生でも履修できます。ただし、科目によっては基礎的なものから発展的な内容に積み上げていくものがあり、計画的な履修が必要です。これらは履修モデル、講義概要（オンラインシラバス）で確認してください。

「音声表現法応用」（「音声表現法基礎」に続く発展的な科目）

「文章表現法応用」（「文章表現法基礎」に続く発展的な科目）

「日本語教育学Ⅰ」（日本語教育をめざす人のためのもっとも基礎的な科目）

「日本語教育学Ⅱ」（「日本語教育学Ⅰ」に続く科目）

「日本語文法論」（日本語教育、国語教育、言語研究をめざす人に勧めます）

「英語科教育概論」(英語教育、教授法についてのもっとも基礎的な科目)

「英語科教育研究」(英語教育、教授法についてやや発展的な科目)

「英語文法論」(英語教育の視点から英語文法を理解し、考える科目)

「異文化間コミュニケーション」(異文化との出会いをコミュニケーションの観点から考える科目。日本語教育、英語教育をめざす人に特に勧めます)

「異文化間コミュニケーション演習」(「異文化間コミュニケーション」で学んだ内容を演習形式で学びます。日本語教育、英語教育をめざす人に特に勧めます)

「言語調査法」(ことばについての疑問をリサーチを通して解決します。言語教育、言語研究をめざす人に特に勧めます)

### 〔3回生〕

3回生で中心になるのは登録必修科目の

「言語コミュニケーション演習Ⅰ」(3回生の小集団演習)

です。全員が登録し、履修しなければなりません。これは4回生での「言語コミュニケーション演習Ⅱ」につながる小集団授業です。4回生での卒業論文執筆、卒業制作への取り組みの入り口になります。言語表現、日本語教育、英語教育、言語研究などの分野別に授業への配属を決定します。

なお、この登録必修の演習については、「言語コミュニケーション演習Ⅰ」に代え、文学部で開講する「テーマリサーチ型ゼミナール」(「ゼミナールⅠ」)を履修することができます。「テーマリサーチ型ゼミナール」を履修する場合は、4回生においても引き続き「テーマリサーチ型ゼミナール」(「ゼミナールⅡ」)で卒業論文、卒業制作に取り組めます。

この他、3回生以降、次の選択科目を受講することができます。授業によってはあらかじめ基礎的な力が求められるものがあります。これは講義概要(オンラインシラバス)で確認してください。

「言語表現法特別研修」(言語表現とその実践の現地研修)

「日本語教育特別研修Ⅰ」(日本語教育にかかわる国内現地研修)

「日本語教育特別研修Ⅱ」(日本語教育にかかわる海外現地研修) ※2009年度、2010年度入学生のみ

「日本語教授法演習」(日本語教育学の発展的な内容)

「英語科授業研究」(英語教育の模擬授業を中心とした科目)

「英語科授業演習(中学)」(中学校での英語指導の仕方を発展的に学ぶ科目)

「英語科授業演習(高校)」(高校での英語指導の仕方を発展的に学ぶ科目)

「日本語史」(日本語教育、国語教育、言語研究をめざす人に勧めます)

この他、1回生、2回生向けに開講された授業も履修することができます。

### 〔4回生〕

4回生では全員、

「言語コミュニケーション演習Ⅱ」(卒業論文、卒業制作をめざす小集団演習)

「卒業論文」(4年間の学びを成果として結実)

を履修しなければなりません。このふたつは必修科目で、卒業するためには履修したうえで、合格する必要があります。このふたつの科目は連動して運営されます。「言語コミュニケーション演習Ⅱ」は3回生で履修した「言語コミュニケーション演習Ⅰ」に引き続き授業で、卒業論文/卒業制作に向けて、みずから構想した研究、制作に取り組めます。その結果を卒業論文または卒業制作として完成し、合格すれば、「卒業論文」の単位を修得することができます。

なお、3回生で「テーマリサーチ型ゼミナール」を選択した人は、上記科目でなく、「テーマリサーチ型ゼミナール」(「ゼミナールⅡ」)で卒業論文、卒業制作に取り組めます。

2011年度以降の入学生には「日本語教育特別研修Ⅱ」が開講されます。

### 3 科目の構成と履修モデル

#### ■ 科目の構成

言語コミュニケーションプログラムはことばとコミュニケーションの広い分野を扱っています。その主な柱は次の5つです。

音声表現      文章創作      日本語教育      英語教育      言語研究

履修にあたっては将来、どのような道に進みたいかをイメージして履修計画を立てることが大切です。次は授業形態別、分野別に授業科目の内容をまとめたものです。ゴシックで示した科目は本プログラムの根幹となる科目で、「コア科目」とよべれます。

科目	小集団系	音声表現系	文章創作系	日本語教育系	英語教育系	言語研究系
言語コミュニケーション研究入門	○					
言語コミュニケーション基礎講読	○					
言語コミュニケーション演習Ⅰ	○					
言語コミュニケーション演習Ⅱ	○					
卒業論文	○					
言語表現概論		○	○			
音声表現法基礎		○				
文章表現法基礎			○			
音声表現法応用		○				
文章表現法応用			○			
言語表現法特別研修		○	○			
コミュニケーション論		○	○	○	○	○
異文化間コミュニケーション		○	○	○	○	○
異文化間コミュニケーション演習				○	○	
日本語教育学Ⅰ				○		○
日本語教育学Ⅱ				○		○
日本語教授法基礎演習				○		
日本語教授法演習				○		
日本語教育特別研修Ⅰ				○		
日本語教育特別研修Ⅱ				○		
日本語史		○	○	○		○
日本語文法論		○	○	○		○
英語科教育概論					○	
英語科教育研究					○	
英語科授業研究					○	
英語科授業演習（中学）					○	
英語科授業演習（高校）					○	
英語教育リサーチ・メソッド					○	
英語文法論					○	○
言語学概論		○	○	○	○	○
応用言語学		○	○	○	○	○
言語調査法		○	○	○	○	○
言語コミュニケーション特殊講義		○	○	○	○	○

## ■ 目的別履修モデル

網かけで示している科目は登録必修科目または必修科目です。

下線がついている科目は選択登録必修科目です。

アナウンサーやナレーターなどに代表される音声表現の高度な力、新聞や雑誌などに記事を執筆するような高度な文章の力をめざす人に勧めます。

放送・出版志望		
回生	言語コミュニケーションプログラム	他専攻等
1	言語コミュニケーション研究入門 言語表現概論 音声表現法基礎 文章表現法基礎 言語学概論 言語コミュニケーション特殊講義	リテラシー入門（教養科目） 映像と表現（教養科目） パフォーミングアート論（学際プログラム） 比較文化論Ⅰ（人文科学総合講座） 比較文化論Ⅱ（人文科学総合講座）
2	言語コミュニケーション基礎講読 音声表現法応用 文章表現法応用 コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション 応用言語学	アカデミック・ライティング（人文科学総合講座） メディア論（人文科学総合講座） 音声学Ⅰ（人文科学総合講座） 音声学Ⅱ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 社会心理学（心理学専攻） 西洋音楽史（学際プログラム）
3	言語表現法特別研修 言語調査法 言語コミュニケーション演習Ⅰ	芸術とメディア（学際プログラム） 音楽文化論（学際プログラム） 日本文学とメディア（日本文学専攻） 日本演劇論（人文科学総合講座） 日本語と文化Ⅰ（日本文学専攻） 日本語と文化Ⅱ（日本文学専攻） 児童文化論（人文科学総合講座） 外国文化講読（人文科学総合講座）
4	言語コミュニケーション演習Ⅱ 卒業論文	

将来、外国語として日本語を教える教員をめざす人に勧めます。日本語を「国語」としてでなく、言語のひとつとして捉え、ことばを通して異文化を超える力を身につけます。

日本語教員志望		
回生	言語コミュニケーションプログラム	他専攻等
1	言語コミュニケーション研究入門 言語表現概論 音声表現法基礎 文章表現法基礎 言語学概論	リテラシー入門（教養科目） 日本語学概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本語学概論Ⅱ（日本文学専攻） 比較文化講義Ⅰ（学際プログラム） 比較文化講義Ⅱ（学際プログラム）
2	言語コミュニケーション基礎講読 コミュニケーション論 日本語教育学Ⅰ 日本語教育学Ⅱ 日本語教授法基礎演習 日本語文法論 応用言語学	言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 音声学Ⅰ（人文科学総合講座） 音声学Ⅱ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 世界の言語（学際プログラム） 日本語と文化Ⅰ（日本文学専攻） 日本語と文化Ⅱ（日本文学専攻）
3	異文化間コミュニケーション 異文化間コミュニケーション演習 日本語教授法演習 日本語教育特別研修Ⅰ（または「日本語教育特別研修Ⅱ」※） 日本語史 言語調査法 言語コミュニケーション演習Ⅰ	日本語と社会Ⅰ（日本文学専攻） 日本語と社会Ⅱ（日本文学専攻） 日本語文化概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本語文化概論Ⅱ（日本文学専攻） 日本文化概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本文化概論Ⅱ（日本文学専攻） 外国文化講読（人文科学総合講座）
4	日本語教育特別研修Ⅱ※ 言語コミュニケーション演習Ⅱ 卒業論文	

※「日本語教育特別研修Ⅱ」は2009年度、2010年度入学生は3回生から履修できます。2011年度以降の入学生は4回生での履修です。

### (1) 日本語教員としての資格認定

日本語教育教員の養成には、一定の教育内容に即した420時間の受講が基準として示されています。

言語コミュニケーションプログラムで開講している日本語教育科目を中心に、上記履修モデルにある他専攻・プログラム科目もあわせて420時間分履修すれば、文学部より420時間受講修了書を発行します。（注 上記履修モデル科目がすべて含まれるわけではありません。また、時間計算は半期15回の授業を30時間認定とします。）

修了書の交付を希望する場合は、420時間分を履修した時点（3回生終了時、または卒業時）に、申請書に成績表を添えて文学部事務室に申請してください。具体的な指示は2回生開始時、3回生終了時に案内します。

「日本語教員養成において必要とされる教育内容」は文部科学省（<http://www.mext.go.jp/>）の「文化」－「日本語教育のための試験の改善に関する調査研究協力者会議」の項目（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/bunka/007/](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/bunka/007/)）などが参考になります。各自で確認してください。

### (2) イノベーション副専攻

言語コミュニケーションプログラムのみなさんは文学部で募集するイノベーション副専攻の「日本語教育コース」に参加することはできません。これは「日本語教育コース」の内容は言語コミュニケーションプログラムで開講する専門科目と同じものであるためです。

中学校、高校の英語教員をめざす人に勧めます。この方面をめざす人はことばとコミュニケーションの力と並んで、英語運用の力が不可欠です。このため、2、3回生時にイノベーション副専攻「英語アドヴァンスト・コース」に参加し、以下の科目を履修することを強く推奨します。

中学校・高校の英語科教員をめざす人は、この他、教科に関する科目、教職関係科目を履修する必要があります。

英語科の教員志望		
回生	言語コミュニケーションプログラム	他専攻等
1	言語コミュニケーション研究入門 言語表現概論 音声表現法基礎 文章表現法基礎 言語学概論	リテラシー入門（教養科目） 英米文学概論Ⅰ（英米文学専攻） 英米文学概論Ⅱ（英米文学専攻）
2	言語コミュニケーション基礎講読 英語科教育概論 英語科教育研究 英語教育リサーチ・メソッド 英語文法論 応用言語学	音声学Ⅰ（人文科学総合講座） 音声学Ⅱ（人文科学総合講座） 言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 比較文化論Ⅰ（人文科学総合講座） 比較文化論Ⅱ（人文科学総合講座） 英語学概論（英米文学専攻） 英語表現概論（英米文学専攻） 英語表現特殊講義Ⅰ（英米文学専攻） 英語表現特殊講義Ⅱ（英米文学専攻）
イノベーション副専攻「英語アドヴァンスト・コース」の次の科目を2、3回生時に同時に履修することを強く推奨します。  Academic Writing & Presentation I, II Thesis Writing I, II English Reading & Discussion I, II Study Skills for Research I, II Cultural Studies I, II, III, IV Field Research		
3	コミュニケーション論 異文化間コミュニケーション 英語科授業研究 英語科授業演習（中学） 英語科授業演習（高校） 言語調査法 言語コミュニケーション演習Ⅰ	英文学史Ⅰ（英米文学専攻） 英文学史Ⅱ（英米文学専攻） 米文学史Ⅰ（英米文学専攻） 米文学史Ⅱ（英米文学専攻） 外国文化講読（人文科学総合講座）
4	言語コミュニケーション演習Ⅱ 卒業論文	

#### (1) 教職科目の単位ともなる科目

次の科目は言語コミュニケーションプログラムにおける専攻科目として卒業単位となると同時に中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得するための教職単位としても認定されます。

科目名	単位	分類	履修方法
英語科教育概論	2	教科の指導法に関する科目	必修
英語科教育研究	2	教科の指導法に関する科目	中学必修 高校選択
英語科授業研究	2	教科の指導法に関する科目	必修
英語科授業演習（中学）	2	教科の指導法に関する科目	中学選択
英語科授業演習（高校）	2	教科の指導法に関する科目	高校選択
英語文法論	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
異文化間コミュニケーション	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択

### (2) イノベーション副専攻《英語アドヴァンスト・コース》

英語教員には高度な英語力が必須です。英語教員をめざす人は、2回生からイノベーション副専攻《英語アドヴァンスト・コース》の履修を強く奨励します。英語アドヴァンスト・コースで修得した単位は卒業単位として認められるだけでなく、教職免許取得に必要な「教科に関する科目」としても認められます。また、なによりも英語教員は英語運用力が必要です。

### (3) 言語教育情報研究科への進学

立命館大学言語教育情報研究科では高度専門職としての英語教員養成を行っています。言語教育情報研究科では国際的に通用する英語教員資格の取得を目的に、オーストラリアのサザーン・クイーンズランド大学でのTESOL（外国語としての英語教育）資格取得プログラムを提供しています。

言語コミュニケーションプログラムの学生で、卒業後、言語教育情報研究科への進学をめざす人には学部4回生時にこのプログラムを早期に履修することができます（受講条件あり）。7月末から8月末までの5週間の集中研修で、TESOL資格を取得します。この単位は言語教育情報研究科に進学した場合、研究科修了に必要な単位として認定することができます。

なお、このプログラムへの参加には英語力について一定の基準があります。参加を希望する人は英語アドヴァンストコースなどで英語力を高めるよう努力してください。

中学校、高校の国語科教員をめざす人に勧めます。国語教員をめざす人は、この他、教科に関する科目、教職関係科目を履修する必要があります。

国語科の教員志望		
回生	言語コミュニケーションプログラム	他専攻等
1	言語コミュニケーション研究入門 言語表現概論 音声表現法基礎 文章表現法基礎 言語学概論	リテラシー入門（教養科目） 日本語学概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本語学概論Ⅱ（日本文学専攻）
2	言語コミュニケーション基礎講読 コミュニケーション論 日本語教育学Ⅰ 日本語教育学Ⅱ 日本語文法論 応用言語学	音声学Ⅰ（人文科学総合講座） 音声学Ⅱ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 日本文学概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本文学概論Ⅱ（日本文学専攻） 中国文学概論Ⅰ（中国文学専攻） 中国文学概論Ⅱ（中国文学専攻）
3	音声表現法応用 文章表現法応用 日本語史 言語調査法 言語コミュニケーション演習Ⅰ	日本文学史Ⅰ（日本文学専攻） 日本文学史Ⅱ（日本文学専攻） 日本文学史Ⅲ（日本文学専攻） 日本語文化概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本語文化概論Ⅱ（日本文学専攻） 外国文化講読（人文科学総合講座）
4	言語コミュニケーション演習Ⅱ 卒業論文	

#### 教職科目の単位ともなる科目

次の科目は言語コミュニケーションプログラムにおける専攻科目として卒業単位となると同時に中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）を取得するための教職単位としても認定されます。

科目名	単位	分類	履修方法
音声表現法基礎	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
文章表現法基礎	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
音声表現法応用	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
文章表現法応用	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
日本語史	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択
日本語文法論	2	教科に関する科目（その他の科目）	選択

ことばとコミュニケーションの力を基礎としながら、言語研究を志す人に勧めます。また、言語学、応用言語学方面で大学院をめざす人にふさわしい履修です。

言語研究志望		
回生	言語コミュニケーションプログラム	他専攻等
1	言語コミュニケーション研究入門 言語表現概論 音声表現法基礎 文章表現法基礎 言語学概論	リテラシー入門（教養科目） 言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 言語学Ⅱ（人文科学総合講座）
2	言語コミュニケーション基礎講読 日本語教育学Ⅰ 日本語教育学Ⅱ 応用言語学 言語調査法	音声学Ⅰ（人文科学総合講座） 音声学Ⅱ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅰ（人文科学総合講座） 社会言語学Ⅱ（人文科学総合講座） 心理学統計法（心理学専攻） 心理学研究法Ⅲ（心理学専攻）
3	日本語史 日本語文法論 英語文法論 言語コミュニケーション演習Ⅰ	日本語学概論Ⅰ（日本文学専攻） 日本語学概論Ⅱ（日本文学専攻） 世界の言語（学際プログラム） 外国文化講読（人文科学総合講座）
4	言語コミュニケーション演習Ⅱ 卒業論文	

## 4 科目概要

### 〔専攻科目〕(専門科目)

#### 小集団・演習系

**言語コミュニケーション研究入門** [コア科目] 通年 /4 単位 /1 回生 / 登録必修  
 高校から大学への橋渡しとなる授業である。大学での学びを進め、また、ことばとコミュニケーションを実践し、研究するのに必要な基本的技能を身につける。必要な資料の探索法、レジメの作り方などの基礎的な学びの技法を身につけ、クラスでの発表、小グループでの討論を通してプレゼンテーションの力を身につける。また、その実践を通して、プログラムで学ぶ、ことば、コミュニケーション、言語教育、言語研究の全領域の見渡し、4年間の学びを意識化する。

**言語コミュニケーション基礎講読** [コア科目] 通年 /4 単位 /2 回生 / 登録必修  
 ことばとコミュニケーション、言語教育、言語研究を主なテーマとして、討論、発表、作品制作などの実践を通し、演習形式で学ぶ。「言語コミュニケーション研究入門」を引き継ぎ、課題についての理解と考察を深め、3回生での「言語コミュニケーション演習Ⅰ」への橋渡しを行う。

**言語コミュニケーション演習Ⅰ** [コア科目] 通年 /4 単位 /3 回生 / 登録必修  
 音声表現、文章表現、コミュニケーション、日本語教育、英語教育、言語研究の分野について設定した小集団クラスにおいて、課題を定め、実践による作品制作または研究論文執筆を行う。プログラムの理念、趣旨にそった創意工夫のある自律的な学びがその目的である。実践系ではラジオドラマの制作、リーダーズ・シアターの開催、言語教育系では教材の開発なども対象とする。4回生の「言語コミュニケーション演習Ⅱ」につながる授業である。

**言語コミュニケーション演習Ⅱ** [コア科目] 通年 /4 単位 /4 回生 / 必修  
 3回生で履修する「言語コミュニケーション演習Ⅰ」を引き継ぐ科目である。音声表現、文章表現、コミュニケーション、日本語教育、英語教育、言語研究の分野において卒業制作または卒業論文執筆にかかわって、討論、発表を中心に課題を追求する。

**卒業論文** 通年 /4 単位 /4 回生 / 必修  
 研究論文としての「卒業論文」だけでなく、作品の制作による「卒業制作」も認める。グループによりドラマのシナリオを執筆したり、取材によりドキュメンタリーの台本を執筆したりして、それをラジオドラマやラジオドキュメンタリーとして制作する、あるいは日本語教育、英語教育のための教材作成などがその例である。卒業制作は卒業論文と同じく、高度な専門性、完成度をもつものでなければならない。

#### 言語表現・コミュニケーション系

**言語表現概論** [コア科目] 半期 /2 単位 /1 回生 / 登録必修  
 言語生活、学校教育、伝承、広告、話芸、文芸などの場面でことばがどのように話され、書かれてきたかを学び、ことばと人間、社会、文化とのかかわりを学ぶ。古来、話しことばによる語りとして始まった表現様式は、近年、ラジオ、映画、テレビなどのメディアの発達とのかかわりのなかで新しい変遷をとげてきた。そこではさまざまなレトリックが生み出され、今日の豊かな言語文化を築くもととなっている。このような流れのなかで生み出されてきたレトリックとそれにかかわってきた人々の思いを理解する。

**音声表現法基礎** [コア科目] 半期 /2 単位 /1 回生 / 登録必修  
 正確でわかりやすく、効果的な音声表現とコミュニケーションについての基礎的理解を行うとともに、その力を実践的に学ぶ。情報を伝える、説得する、聞き手を楽しませるという目的にそって、人前で聞き手との関係を築

きながら、共感をもって話す基礎的な力を身につける。文学作品を深く理解し、作者の意図、登場人物の心理を豊かに伝える朗読による表現を実践的に学ぶ。また、グループの司会のように小集団によるコミュニケーションを円滑に行う力を身につける。

#### 文章表現法基礎 [コア科目]

半期 /2 単位 /1 回生 / 登録必修

正確でわかりやすい文章の書き方についての基礎的理解を行うとともに、目的にそった文章の書き方を実践的に学ぶ。解説文では主題文、支持文、段落の関係、場所や時間の流れにしたがって話題を展開する手法など、基礎的な力を養う。フィクションの分野では物語の構成と展開についての基礎的理解のもとに、物語の創作、シナリオ執筆の基礎を実践的に学ぶ。

#### 音声表現法応用

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

「音声表現法基礎」での学びをもとに、効果的な音声表現によるコミュニケーションの力をさらにいっそう高める。詩や小説を題材に、場面、登場人物の心理、物語の展開などを深く解釈し、それを音声で的確に表現する表現読みを実践により学ぶ。さらに戯曲などを題材にグループによる朗読劇を演じ、演出する方法を学ぶ。また、情景やできごとの展開を音声で的確にわかりやすく伝えるアナウンスの力をさらに伸ばし、目的と場面に応じた音声表現力を伸ばす。

#### 文章表現法応用

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

「文章表現法基礎」で身につけた力をもとに、フィクション、ノンフィクションのジャンルでの高度な文章創作を実践的に学ぶ。物語、民話、短編小説の構成、展開、その技法を学び、民話を作品に仕上げたり、物語を創作したりする実践を行う。また、ラジオドラマの脚本を執筆し、想像性豊かな作品を書く力を身につける。また、新聞記事やルポルタージュを読み比べ、その技法を学び、取材をもとに身近な題材で記事やルポルタージュを執筆し、ノンフィクション作品を書く力を身につける。

#### コミュニケーション論

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択登録必修

人と人が出会い、コミュニケーションを行うときの過程を社会心理学的な観点から理解する。対人コミュニケーションは個人内コミュニケーションの延長である。自己イメージの形成、自己開示を手がかりに個人内コミュニケーションが対人コミュニケーションにどのような影響を及ぼすかを学ぶ。また、言語的、非言語的なコミュニケーション、共感、説得という視点からコミュニケーションを理解する。さらに対人コミュニケーションの拡大した形である小集団コミュニケーション、組織コミュニケーションについても基礎的な理解をする。

#### 異文化間コミュニケーション

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

異なる文化的背景をもつ人が出会ったときに起こるコミュニケーションの過程を理解し、異文化適応の力を学ぶ。文化には特有のコミュニケーションスタイルがあり、その文化の価値観が投影されている。さまざまな文化における言語的、非言語的コミュニケーションの特徴を理解する。また、高コンテクスト文化、低コンテクスト文化の違い、文化によって異なるコミュニケーションのストラテジー、スクリプト行動などを切り口として日本人と他文化の人々のコミュニケーションを比較する。

#### 異文化間コミュニケーション演習

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

異文化間コミュニケーションに関わる基礎的資料を読み、主要な課題についての討議、発表をとおして異文化とコミュニケーションについての理解を深めるとともに、研究課題を設定し、共同で、あるいは個人で調査・研究を行う。異文化間コミュニケーションの理論を具体的な課題にかかわって考察し、異文化理解とそのプロセスへの洞察を深める。「異文化間コミュニケーション」を履修済みであるか、または同時履修することが望ましい。

#### 言語表現法特別研修

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

音声表現または文章表現について、放送局、出版社など、ことばによる実践を行う現場において実地研修を行う。企画、取材、制作などの現場を体験し、言語表現にかかわる授業で学んだことがらを実際の現場のなかで検証し、実践的な力を伸ばし、ことばの専門家をめざす者としての資質を養う。履修するためには「音声表現法応用」ま

たは「文章表現法応用」のいずれかに合格していることが必要である。

## 日本語教育系

### 日本語教育学Ⅰ

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について理解を深め、日本語教育に必要な基礎知識を身につける。言語学、日本語の文法・音声、日本語学史の基礎を学び、日本語の構造、音声、語彙、意味についての基礎的な知識の習得をめざす。日本語教育に必要とされる基礎知識の習得とともに、日本語を含む言語一般のもつさまざまな問題を自分自身で分析するための知識と方法論を身につけることが目標である。「日本語教育学Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。

### 日本語教育学Ⅱ

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

「日本語教育学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、日本語教育や国際交流に関わっていくのに必要な日本語の知識、教育観、国際感覚、外国語学習、外国語教育について、日本語教育に求められる発展的な力を養成する。「日本語教育学Ⅰ」で学んだ知識を土台として、語用論、言語習得モデル、中間言語、学習ストラテジーなど第二言語習得理論を学ぶ。また、同時に、バイリンガル教育、コミュニケーション理論、異文化間コミュニケーション、日本語教育事情、音声教育への導入を行う。日本語教育と学習者への理解を深め、教育の現場で役立つ能力に近づけることを目標とする。

### 日本語教授法基礎演習

通年 /4 単位 /2 回生以上 / 選択登録必修

日本語教授法には大きく分けて2つの課題がある。ひとつは何を教えるかという内容であり、もうひとつはどのように教えるかという方法である。前期では内容について学ぶ。まず、音声学について [IPA] と比較しながら日本語の音声・発音の特徴を学ぶ。次に、文字・語彙についてそれを支える仮名・漢字を中国漢字との対照、外国語との意味比較から考える。文法-構文については、文末決定性のある日本語を、テンス・アスペクト・モードなど、述部の特徴を中心に学習する。後期では方法について学ぶ。まず、言語教育のメソッド、アプローチ、テクニック等と呼ばれる教授法を概観する。次に、教室でのインタラクションについて考える。教室環境、練習の種類と教具・教材、また教師からの働きかけに焦点を絞って、クラスルーム・リサーチという実証的な方法で分析を試みる。「日本語教育学Ⅰ」を同時に履修しているか、履修済みであることが望ましい。

### 日本語教授法演習

通年 /4 単位 /3 回生以上 / 選択

「日本語教育学Ⅰ・Ⅱ」、「日本語教授法基礎演習」で学んだ基礎知識をもとに、実際の授業に必要な知識や実践的な力を養うことを目標とする。前期は、シラバス作成、学習目標設定、教材分析などのコース・デザイン方法について学ぶ。また、主な外国語教授法とその背景、特徴、教室活動について学ぶ。初級レベルの教材分析を通して各教材の背景となる教授法や効果的な指導法を検討する。後期は、前期に学んだコース・デザイン方法、教科書分析、教授法をもとに、具体的にどのように授業を組み立て、どのような練習を行えばよいかを学ぶ。初級学習者対象の設定で教案を作成し、模擬授業ならびに授業分析を行う。模擬授業の振り返りから教師、学習者、両方の視点について考える。「日本語教授法基礎演習」を履修済みであることが望ましい。

### 日本語史

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

現代日本語をよりよく理解し、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めることを目的に、音韻、文字、語彙、文法について日本語の成り立ちを通時的に理解する。音韻とアクセントが歴史上変化してきた経過と 50 音図の成り立ちを学ぶ。文字が成立した経緯から現代までの流れを理解する。語彙については、和語、漢語、その体系、意味の変遷について理解する。文法の面では助詞、格助詞、接続助詞の変化の歴史、活用の体系とその歴史的な変遷、係り結び、呼応について学ぶ。また、地域方言と標準語の成り立ちについて理解する。

### 日本語文法論

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

現代日本語をよりよく理解し、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めることを目的に、日本語文法の主要なテーマをとりあげ、用例の分析を通して、その背後にある文法性を探り、日本語文法の基本的な考え方を学ぶ。

## 日本語教育特別研修Ⅰ

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

国内で行われている日本語教育の現場を実地に体験し、日本語教育学で学んだ理論を実践の立場から検証し、日本語教育への洞察を深め、力量を高める。履修するためには「日本語教育学Ⅰ」、「日本語教育学Ⅱ」、「日本語教授法基礎演習」の3科目に合格していることが必要である。

## 日本語教育特別研修Ⅱ

半期 /2 単位 /3 回生以上 ※ / 選択

海外の日本語教育の現場で実地研修を行う。海外の学校で行われている日本語教室を実地に体験することで、日本語教育学で学んだ理論を実践の立場から検証し、日本語教育への洞察を深め、力量を高める。履修するためには「日本語教育学Ⅰ」、「日本語教育学Ⅱ」、「日本語教授法基礎演習」の3科目に合格していることが必要である。

※「日本語教育特別研修Ⅱ」は2009年度、2010年度入学生は3回生から履修できます。2011年度以降の入学生は4回生での履修です。

## 英語教育系

### 英語科教育概論

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

英語教育を志す人のための入門科目。英語科の概論として位置付け、英語科の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領などにも言及しながら、英語科の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。

### 英語科教育研究

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

「英語科教育概論」に続く、英語教育の入門科目。英語科の歴史的展開、目標論、内容構成論、学習指導方法などについての考察をさらに発展させ、英語科教育の内容についてのより高度な理解、教材研究・授業研究の基本的な方法論の検討を通して、実践的力量の形成をめざす。英語教育の目的を、総合的なコミュニケーション能力の育成に置き、現状分析を踏まえて、その望ましいあり方を模索するために、さまざまな実践例を紹介し、英語教育の方向性を探る。

### 英語科授業研究

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

英語教育についての基礎的理解をもとに、英語授業の展開、実践の方法を学ぶ。英語科の授業構成論または授業研究として位置付け、英語科の授業構成論、授業の分析や授業開発方法、指導案の作成方法などの検討及びその実践を通して、英語科の授業づくりや学習指導についての実践的力量の形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。

### 英語教育リサーチ・メソッド

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択登録必修

英語教員が教室で日々遭遇する英語教育学的課題をアクション・リサーチの手法を用いて解決する力を養う。指導技術の改善、教材の分析、テストの妥当性、信頼性、評価など英語教育の主要テーマについて、量的、質的な手法による課題解決の手法を学ぶ。

### 英語科授業演習（中学）

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

中学校の英語教員を目指す学生を対象に、実践的な英語指導力を養成する。授業案作成能力、教材作成能力、授業技術について、教室という現場で求められる力を身につける。同時に、小学校英語教育をも視野に小学生に対する望ましい英語授業、活動を展開するための技能を養う。

### 英語科授業演習（高校）

半期 /2 単位 /3 回生以上 / 選択

高校の英語教員を目指す学生を対象に、実践的な英語指導力を養成する。授業案作成能力、教材作成能力、授業技術について、教室という現場で求められる力を身につける。同時に、中学校英語教育との連携を念頭に、高校での導入教育のありかたを考える。

**英語文法論**

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

英語教員をめざす人が理解しておくべき英文法について、伝統文法・学校文法を基礎に近年の記述言語学的研究から得られた知見をもとにその知識と理解の再構成を行う。法、相、時制などの基本概念をあらためて理解し、仮定法、完了形、受動態などの文法形式が英語史のなかでどのように形成され、現代の英文法の成立にいたった経緯を学ぶ。またこれまで提案されてきたさまざまな文型について理解することにより、言語学的な複数の視点から英語文法を理解する力を養う。

**言語研究系****言語学概論 [コア科目]**

半期 /2 単位 /1 回生以上 / 登録必修

言語のしくみ、ことばと社会、ことばと人間についての基礎的理解を深め、言語教育、言語研究をてがけるための導入を行う。音素、形態素、統語、語彙の面から言語のしくみについて学ぶとともに、言語類型論の基本を学び、日本語と英語、中国語、韓国語などの違いを理解する。また、ことばと記号、文化、意味、社会、心理、論理、コミュニケーションのかかわりについて学び、言語が人間、また人文学の諸分野と分かちがたくかかわっていることを学ぶ。

**応用言語学**

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択登録必修

人とことばとのかかわりを実践的な立場から考える。人とことば、人と社会、ことばと認識、テキストの分析、コーパスによる言語分析、言語習得など守備範囲の広い分野から代表的なテーマを取り上げ、応用言語学への導入を行う。同時に最新の応用言語学の知見と成果を紹介しながら、言語研究をめざす人には新しい言語研究の展望を示す。

**言語調査法**

半期 /2 単位 /2 回生以上 / 選択

ことばに関する疑問や課題を応用言語学的手法により、自律的に解決する力を養う。歴史的に変遷する意味・用法の探り方、社会に広まりつつある新しい意味・用法の普及の実態を文献により、あるいは数量的な手法により探索する手法を理解し、それをもとに問題をみずから発見し、解決する自律的な力を身につける。また、コーパスを利用した最新の言語学的手法を学び、学術的な知見を探索する手法を身につける。

**特殊講義系****言語コミュニケーション特殊講義**

半期 /2 単位 /1 回生以上 / 選択

学生諸君の関心や社会的な要請に迅速に対応し、授業内容を機動的に編成することで、みなさんの学術的関心に応えることをめざした科目である。音声表現、文章創作、言語教育、言語研究の各分野について、もっともホットな内容をとりあげる。授業名に「特殊」ということばがついているものの、決して狭い、特殊な内容を扱うものではなく、普遍的、先端的な内容を扱う授業である。この授業は内容が異なれば、複数の授業に登録し、履修することができる。

**〔教養教育科目〕****A 群**

1 年次から学ぶ、講義形式の基礎教養科目です。幅広く知見を広げることはことばとコミュニケーション、人間と社会を学ぶことにとって意義のあることです。みなさんの関心に応じてバランスよく選択し、幅広く、深い力を身につけてください。

**B 群**

この中で、1 回生配当の「リテラシー入門」は登録必修です。人文学を学ぶうえで基礎となる文章作成を実習します。

**〔人文科学総合講座〕(専門科目)**

ことばとコミュニケーション、人間と社会に関する知見を広げ、深めるため、本プログラム以外の専門科目を積極的に学んでください。人文科学総合講座には1 回生から3 回生まで履修できる科目が数多く開講されています。

## 〔テーマリサーチ型ゼミナール〕（専門科目）

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバリゼーションを目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチしうるテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をしてください。

2011年度3回生ゼミテーマ

例)「説き方の表現と教育心理学」、「中国映画から現代中国の文化を考える」、「THEMES IN ASIAN STUDIES」

## 〔外国語科目〕

言語コミュニケーションプログラムでは第1外国語は英語です。第2外国語としてはドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語、イタリア語のうちからひとつを選びます。卒業までに第1外国語（英語）を8単位（1・2回生）、第2外国語を6単位（1回生）修得します。

英語は現在、民族語としての性格から国際通用語としての性格を強めつつあります。みなさんが将来、どの方面に進む場合でも、国際的な場面で活躍するには必須の力です。また、音声表現や文章創作を志す人にとっても外国語を学ぶのは大きな意味があります。外国語を学ぶことで日本語をよりよく理解できます。英語教育を志す人は英語運用力はなによりもまず必要とされる力です。

第2外国語を学ぶのはことごとコミュニケーションを学ぶみなさんにとって大きな意味があります。言語文化の広く、豊かな世界に触れるには、英語以外の外国語に触れることが大きな力になります。

将来、日本語教育を志す人は中国語あるいは朝鮮語を学ぶことを考えるといいでしょう。外国語として日本語を学ぶ学習人口には中国語、朝鮮語を母語とする人が多く、日本語を教える際、大いに役立ちます。また、西洋語と異なる語系の言語を学ぶことで、言語教育上、新鮮な驚きを経験することができます。

英語教育を志す人には特にどの言語を勧めるというものはありません。どの言語にもそれぞれ学ぶ意義があります。ドイツ語はゲルマン系諸語のひとつで、英語に近く、古い英語の姿を若干とどめています。フランス語、スペイン語、イタリア語はロマンス系とよばれる語系に属し、文法構造は英語とやや異なりますが、英語の歴史的発展の経緯から語彙には共通するものが数多くあります。中国語、朝鮮語は西欧系諸語とは系統を全く異にしています。言語の多様性に触れることで言語教育を新鮮な目でとらえることができます。

## 5 言語コミュニケーション研究入門

### (1) 「生徒」から「学生」へ

「言語コミュニケーション研究入門」は1回生で学ぶ授業のなかで一番大きな柱です。そして同時に多くの人がとまどう授業です。それはこの授業が他の科目とは異なり、「高校から大学での学びへの橋渡し」をめざしたものであるという点で、他の授業とは進め方が大きく異なるからです。

高校での学びは一般に教科の内容を正確に、深く理解することをめざしています。このため、教師は知識を与え、生徒はその知識を修得し、理解するというぐあいに役割が明確です。そこでは学ぶべきものはあらかじめ設定されており、それにいかに近づけるかが評価のポイントとなります。

しかし、大学で私たちがめざしているのは、先人が築き上げてきた知を要領よくわがものとするのではなく、みずから新しい知見を拓いていくことです。英語の student は一般に「学生」と訳されます。しかし、本来の意味は「学ぶ人、研究する人」という意味です。このため、学生だけでなく研究者も意味します。学生であっても研究者であっても新しい知見を探ることをめざす点では変わりありません。どんなに小さなことであって、私たちがなければ探り当てることのできない知見を提示し、人間の知の営みに参加することが学問のめざすものです。

研究入門の趣旨、めざす目標を一言でいえば、「生徒」から「学生」へ」ということです。教室に座って、教員の話すことを聞いているというイメージを私たちは期待していません。みなさんが自分から進んで課題を見だし、解決法を模索し、知の営みに参加することを期待しています。

## (2) 研究入門での活動

この目的のため、研究入門はみなさんの自主性、独立性、創造性を最大限に生かすよう運営されます。授業ではことばにかかわる素材を扱いながら、発表と討議を中心に授業が構成されます。個人ひとりひとりが課題設定を行い、討議に参加し、研究発表を行うとともに、グループを作り、グループで討議し、協力しあいながら研究発表、作品制作に取り組みます。

研究入門はまた2回生以降での学びの全体像の提示の役割も担っています。言語コミュニケーションプログラムは、音声表現、文章創作、日本語教育、英語教育、言語研究という、ことばとコミュニケーションにかかわる幅広い分野を扱います。このため、それぞれの分野のイメージがつかめるよう授業内容が設定されています。2回生以降、どのような分野を中心に学んでいくか、その方向を見定めることも念頭に授業に参加してください。

## (3) 研究入門の目標

このような趣旨から、研究入門では次のような力を身につけることを目標としています。

1. みずから問題を発見し、課題を設定し、解決しようとする力を身につける。
2. 人間と社会について関心をもち、積極的にかかわっていかうとする態度を養う。
3. グループのなかでコミュニケーションを行いながら、チームワークを進めることのできる力を身につける。
4. 人前でわかりやすく発表できる力を身につける。
5. 目的にそった効果的な文章を書くことのできる基礎的な力を身につける。

# 6 言語コミュニケーション基礎講読

2回生で学ぶ授業のなかで一番大きな柱です。言語コミュニケーション研究入門が高校での学びから大学での学びへの橋渡しであったのに対し、基礎講読では3回生での「言語コミュニケーション演習Ⅰ」（またはテーマリサーチゼミナールの「演習Ⅰ」）への橋渡しとなる科目です。

基礎講読では言語表現、言語教育、言語研究という分野を設定して演習形式により授業を行います。研究入門と同じように、ここでもみなさんに期待されているのは教員の話すことを聞いて、それを理解するというものではありません。みずから課題を設定し、その解決法を探り、どんなに小さなことであっても、きらりと光る新しい知見を提示していくことです。このため、授業では個人またはグループによる討議、発表を通して研究、作品制作に取り組みます。

# 7 演習

3回生では全員「言語コミュニケーション演習Ⅰ」を履修します。これは4回生で手がける「卒業論文」（卒業制作）に続く科目です。音声表現、文章創作、日本語教育、英語教育、言語研究の区分により授業を設定し、募集を行います。募集は2回生の後期に行います。

4回生では全員「言語コミュニケーション演習Ⅱ」を履修します。これは「卒業論文」（卒業制作）の指導を行いながら、プログラムでの学びの集大成を行うことを目的としています。原則として「言語コミュニケーション演習Ⅰ」のクラスがそのまま、「言語コミュニケーション演習Ⅱ」のクラスに持ち上がります。

「言語コミュニケーション演習Ⅰ」、「言語コミュニケーション演習Ⅱ」は基本的に3回生、4回生合同で授業を行います。3回生は4回生から学び、4回生は3回生の学びを支援しながら、協同した学びを実践します。

## 8 卒業論文・卒業制作

文学部では「卒業論文」を執筆し、合格することを卒業のための必須の条件としています。言語コミュニケーションプログラムはことばによる実践を教学の大きな特徴としています。このため、本プログラムでは従来の「卒業論文」という形式だけでなく、音声、文章による実践をもとにした「卒業制作」も認めています。たとえば、次のようなものはその例です。

ラジオドラマの脚本の執筆、また共同での番組の制作。

民話の収集をもとにしたストーリーテリング・フェスティバルの企画・開催、およびその報告集の作成。

企画を立て、取材、調査をもとにした、社会的に意義のあるドキュメンタリー番組の制作。

小説など文学作品の執筆。

言語教育学的な立場からの日本語教育、英語教育の教材開発。

卒業論文であっても卒業制作であっても、その学術的・芸術的レベルは4年間の学修の成果を示す、高度なものではなければなりません。

### ■ 卒業論文形式で制作の場合

文書体裁	<p><b>日本語で執筆の場合</b></p> <p>横書き A4 判白紙にワープロで印字。 上下左右に 2.5cm の余白をとる。 フォントは MS 明朝、文字サイズは 10.5 ポイントを基本とする。 1 ページ 40 行、1 行 40 文字を基本とする。</p> <p><b>英語で執筆の場合</b></p> <p>A4 判白紙にワープロで印字。 上下左右に 2.5cm の余白をとる。 フォントは Times New Roman、文字サイズは 11 ポイントを基本とする。 1 ページ 40 行を基本とする。</p>
分量	<p><b>日本語で執筆の場合</b></p> <p>本文 12 枚以上、20 枚以下</p> <p><b>英語で執筆の場合</b></p> <p>本文 10 枚以上、15 枚以下</p>
表紙等の体裁	A4 フラットファイル（色指定なし） 長辺綴じ
題目シール	所定のを表紙に添付
部数	<b>2 部</b>
その他	<p>本人のみの単著であること。共同執筆は該当しない。</p> <p>細かな体裁、スタイルシートなどについては指導教員の指示にしたがう。</p> <p>1 月から 2 月にかけて口頭試問を行う。</p>

## ■ 非卒業論文形式（卒業制作）で制作の場合

作品のレベルと要件	高度な芸術性、社会性、独創性を有していること（趣味的なものは該当しない）。 放送などのメディアにより公開できる要件をそなえていること（著作権、プライバシーを侵害していないこと）。
体裁	制作物が印刷物の場合はフラットファイル等に綴じ、まとめて提出。 制作物が音声、映像の場合は CD-R あるいは DVD-R に記録して提出。
分量	作品の内容にみあった分量であること。詳細は指導教員と相談すること。
制作報告書	グループによる制作、個人による制作にかかわらず、ともに、各自、個別に制作報告書を作品とともに提出する。制作報告書は、企画・制作にかかわる背景、意義、反省などを中心に記述する。分量は 4,000 字以上。体裁は卒業論文に準じる。
題目シール	所定のものを表紙に添付
部数	<b>2 部（作品、制作報告書とも）</b>
提出方法	1. グループ制作で全員のものをまとめた作品を提出する場合は、1 点（2 部）を <u>全員が揃って提出するか、同じものをコピーして各自 2 部提出する。</u> なお、グループ制作でも、個別担当部分のみを提出する場合は個人提出となる。 2. グループ制作で、全員揃っての提出ができないことがあらかじめわかっている場合は、各々が同じものを 2 部コピーして提出する。全員提出を予定していたにもかかわらず、そのグループのだれかが当日に予期せぬ事態に遭い、全員での提出ができなくなった場合は、締め切りに間に合ったメンバーの提出は認めるが、遅れた学生については通常の卒業論文の運用と同じ扱いとなるので、十分注意すること。
その他	口頭試問に代え、1 月に制作発表会を行う。全員の参加が必要である。

卒業論文提出までの手続きについては履修要項「『卒業論文』の提出について」を参照してください。

## テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げ提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

### ◆体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数：12,000 字以上 20,000 字以下 英文の場合：65 ストローク× 25 行、A4 用紙 15 枚以上 30 枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。
	その他の注意	学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず <b>2部</b> 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず <b>2部</b> 提出すること。
	その他の注意	1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000 字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。



## 科目一覧と履修方法

# 1 科目一覧

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概論	言語表現概論 (2) 言語学概論 (2)	コミュニケーション論 (2) *日本語教育学 I (2) *日本語教育学 II (2) *日本語教授法基礎演習 (4)：通年 日本語文法論 (2) *英語科教育概論 (2) *英語科教育研究 (2) *英語教育リサーチ・メソッド (2) 英語文法論 (2) 応用言語学 (2)	*日本語史 (2) *英語科授業研究 (2)	
実践・演習	*音声表現法基礎 (2) *文章表現法基礎 (2)	*音声表現法応用 (2) *文章表現法応用 (2) 異文化間コミュニケーション (2) *異文化間コミュニケーション演習 (2) 言語調査法 (2)	*言語表現法特別研修 (2) *日本語教育特別研修 I (2) *日本語教育特別研修 II (2)※ *日本語教授法演習 (4)：通年 *英語科授業演習(中学) (2) *英語科授業演習(高校) (2)	*日本語教育特別研修 II (2)※
特殊講義	*#言語コミュニケーション特殊講義 (2)			
小集団	*言語コミュニケーション研究入門 (4)：通年	*言語コミュニケーション基礎講読 (4)：通年	*言語コミュニケーション演習 I (4)：通年	*言語コミュニケーション演習 II (4)：通年 *卒業論文 (4)：通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。

2. \*のついた科目は、言語コミュニケーションプログラムの学生のみが受講できます。

3. #のついた科目は、重複受講ができます。

4. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。

※「日本語教育特別研修 II」は 2009 年度、2010 年度入学生は 3 回生から履修できます。2011 年度以降の入学生は 4 回生での履修です。

## 2 履修方法

**必修科目**（卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目）

①	言語コミュニケーション演習Ⅱ（4回生以上） ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4回生以上）	1科目 4単位選択必修
②	卒業論文	4単位必修

**登録必修科目**（必ず登録・履修しなければならない科目）

③	言語コミュニケーション研究入門（1回生のみ）	4単位
④	言語表現概論（1回生以上）	2単位
⑤	音声表現法基礎（1回生のみ）	2単位
⑥	文章表現法基礎（1回生のみ）	2単位
⑦	言語学概論（1回生以上）	2単位
⑧	言語コミュニケーション基礎講読（2回生のみ）	4単位
⑨	言語コミュニケーション演習Ⅰ（3回生のみ） ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ）	1科目 4単位選択

**選択登録必修科目**（次のうち少なくとも1科目を登録・履修しなければならない科目）

⑩	コミュニケーション論（2回生以上）	2単位
⑪	日本語教授法基礎演習（2回生以上）	4単位
⑫	英語教育リサーチ・メソッド（2回生以上）	2単位
⑬	応用言語学（2回生以上）	2単位

**専門科目以外の登録必修科目**

⑭	リテラシー入門（1回生前期）	2単位
---	----------------	-----

受講登録方法は履修要項を参照して下さい。

### 3 共同研究室の利用法

清心館1階に言語コミュニケーションプログラム共同研究室を設置しています。共同研究室とは、学生、教員の区別なく、学び合い、研究を進める本拠地です。プログラムで扱う分野の基礎的な書籍、資料を設置し、実習のための設備を備えています。

#### 利用時間

大学の休業日を除き、毎日、午前9時から午後9時30分まで利用できます。

#### 利用のルール

共同研究室は研究、実習のための施設です。図書館と同じように静粛を保ってください。飲食は禁止です。録音設備の利用は授業での利用を優先します。

### 共同研究室利用のきまり

#### ■ 共同研究室の目的

共同研究室は言語コミュニケーションプログラム所属の教員、学生がともに学び、研究を進めるための施設です。授業の課題について個人的に、あるいはグループで共同で取り組んだり、卒業論文、卒業制作を手がけたりするために使います。

#### ■ 利用時間

大学の休業日（統一補講日も含む）を除き、毎日、午前9時から午後9時30分まで。

#### ■ カギの管理

##### カギの借り出し方

文学部事務室で学生証と交換に借り出します。

カギの返し方(定期試験期間や休暇期間などは時間が変更になる場合があります。事務室の掲示で確認してください。)

17:00まで 窓が施錠され、照明、機材の電源、空調などの電源が切つてあることを確認した後、文学部事務室に返却し、学生証を返してもらいます。

17:00-21:30 敬学館事務室に返却します。(もし、21:30の敬学館事務室閉室に間に合わなかった場合は、至徳館1階東側のキャンパスインフォメーションに返してください)

##### カギの責任者を交代する場合

自分でカギを借り出し、作業が終わって帰ろうとしても他の人が残っている場合は、いったん施錠した後、ふたりに文学部事務室(17:00以降は敬学館事務室)に行き、学生証の交換をします。ふたりが共同研究室を留守にする場合、必ず施錠してから出てください。共同研究室が無施錠のままだれもいない状態にしないでください。

#### ■ 図書の利用

図書は共同研究室内での利用に限ります。これはできるだけ多くの人に利用の機会を保障するためです。

#### ■ 録音・編集機材の利用

1. 授業での作品制作実習などの利用を優先します。
2. 利用予約・記録表を準備しています。利用する場合にはこれに記入してください。
3. 編集用パソコンに保存した音声ファイルは自分のCD-RやUSBメモリ、携帯用ハードディスクなどにコピーして保存してください。ハードディスクに残したままにしないでください。パソコンに記録したデータは随時削除されますので注意してください。

## ■ パソコンとプリンタの利用

1. 共同研究室のパソコンはプログラムでの共同作品制作などのためのものです。授業で使うレジюме作成など、個人的な目的での利用はオープンパソコンルームを使ってください。
2. プリンタは共同研究室での利用に必要なものに限ります。授業に使うレジюмеの印刷や個人的な目的での利用はできません。授業でのレジюмеの印刷は事務室での手続きにより、授業用の印刷機を利用してください。
3. パソコンの設定を変更したり、ソフトウェアをインストールしてはいけません。インストールが必要な場合は教員の許可を得てください。

## ■ 快適に利用するために

1. 共同研究室は研究、実習のための施設です。図書館と同じように静粛を保ってください。飲食は禁止です。
2. 施錠せずに共同研究室を出てはいけません。一時的であれ、無施錠のままだれもいない状態にはしないでください。
3. 私物を共同研究室に置いてはいけません。
4. 共同研究室の清掃、整頓は私たちの責任で行います。その日、利用した人は後片づけ、ゴミなどの始末をしてください。





